

接てりくの如く以上津土漢書 篇のうまを畧せ ○十一月七日暮六時附吉原江戸

町二丁目より火入りて南風烈しく一廓焼亡此火廓の焼か

て本所中のいふよりて銘る以附遊女十二人焼死は其後の後始て焼る

○十二月廿六日江戸小火災あり和洋合運ふか 未洋

延宝八年 丁巳 十二月望

正月八日下谷池のまへ横田七郎右衛門のあき事と受ひぬぐ難司

右鬼子母神を祈りて小其賢ま村佐方由小畑町之又川中へ

今日鬼子母神像を感得いて後七郎右衛門妻男子を以て翌年

此像を本所本佛より安座せしむ ○七月中旬より江戸中町へ踊

ちしほり災難をそひりて以氣の一本小延宝己の年の也 踊りそり老が踊るよりり

○八月六日大風雨本橋町芝をこぼるこぼる之瀬上る

○江戸省板形七卷 ○奉朝院元考二冊刊行 重加為編

同六年 戊午

河原上人奥澤村澤真くかんがら九品律宗ま ○東海道綴巻終五冊持

徳者徳者 ○舟舞ぶま始む所ま元江代月市村行々ま延波ま類まのまままくま容

貌まりま災難ありまらまありてま毒常まをま悟まりま菩提まの門ま入りま今年

廿五日法後をま勘ま富清まをま終まりてま行ま法ま師まとまるま想まをまとまり

少くし舞納まの月ま別ま祭まりてま舞ま者まとまりま後まをま資まおまひま法ま公ま座まりま

ある後小寺野立ま月ま自ま性ま院まをま再ま興まりま常ま行ま念ま佛まをま修ままま世ま下

作まのま興ま寺まとまりま ○十月廿日猪熊ま右ま系ま時ま行ま率ま 二十七年

○同月八日古等ま二ま代まりま榮ま率ま 二十七年

同七年 己未

夏大為大川筋（地名）に和あり

○十一月二日浪人平井権八田川に於て刑せらる（浪人の初名）西原多喜
のむね小幡隆流の長妻おきよ九組で焼く一とて同一時行
く人あり長妻おきよおかの入かへて控入ありあり

○十二月十二日連舟作里村思通率（六十五才）

延宝八年 庚申 八月廿

正月八日落木春朝率（北黄坊持次と号す）大沼の寄をあらめて沼越を修し

○二月十日初五率時今に年時今近園夜のれ（西本頼平今年の
北より築地おらる

○二月十日初五率時今に年時今近園夜のれ（西本頼平今年の
北より築地おらる

○二月初月掃帚おりの集のごとく（六十三才）

○六月廿九日能人松江惟舟率（七十四才 名を頼
信持大空を渡す） ○八月廿八日廿之如末

五智如末の大佛入仏信あり（再建あり） ○八月廿六日大凡為深川本新

原町靈巖寺後地海八丁堀海上漕り上ておを損一人溺る（築地
あり）

橋損一住持止る谷中法蔵寺本堂築地まで半傾く（おのり
あり）

東海三筋前へ浪波あきて民家を觸る（築地
あり）

○十一月毎日間の刻より坤の方へ度サ二尺脈長廿五筋あり

白雲ありし根の根を長空里との十二月五日より

○投棄拾葉全集 二十三巻

延宝年間記事

永代傳八幡宮のいさを融まておのり寄り稀ありしと延宝
のころおのり寄り二町のうち酒持築地を流り服女のおを

天和元年 辛酉 九月廿五日改元

二月五日因光復室宇宗刻

上野八幡別当護国寺住持法下
亮安宗基 五月遷教と改る

○浅草川廣ぐる○猪必肌腫

山王神田の事被隔棄ふたの事

長正五年多礼
年毎小節あり

○日蓮上人に百年忌

法苑宗より
院法舎

○十一月廿八日丸山が妙寺

より火事なり約延焼亡○十二月廿八日川田の窟より火入りて田舎

赤坂麻布二田甚々町ふらる○今年より國橋は掛替あり矢の

倉敷服より奉納一ツ目の橋降へ渡る坂橋を設く今より元安寺

とあり今五年の後元禄九年より今より西へ延管あり

同二年 壬戌

二月六日市谷ふあり一復本山天龍寺敷火より延焼五年に言

後さる○二月廿八日御人為山宗周の戸ふ率以七十八才

○三月御人石田末孫率 未得の男あり ○四月琉球人來朝 正後々積ま子

○四月十七日明の参事えんの先生約込事率 年八 常而久茲那瑞庵山守 十三

并兼以 ○四月廿九日狩野雪屋率 二十才 撰出女

○七月儒師本中順庵 信務 年三九

○七月二日大雲に十海西墮 ○同日落合恭雲より菅山白翁が参

禪師寂以 ○七月法橋人海瑞瑞信の教天下一の号を信ぐる

○同月急形船の寸法は定あり ○八月朝鮮人來朝 正後尹趾寛副使率
長瀬浪事 朴恭之俊

率抄より
法殿より ○九月安宅丸舟船を解ひしうせあり

○九月より翁海船が東敵山月小地をのぞり グクリヤウ 学寮を建ふ忍中 志のたけ

海より翁海船を後一經をを建ふる ○青山橋が東長橋より古洞

佛河津陸像を安置以 寛政十三年 昔本末が寺の同ふあり一と大坂

城中移りて... 持成り今村桑う八丁堀の在
あり... 今年九月迄の事

○十一月晦日戸田斎膳... 斎膳の事
○十二月廿八日東下町筋込大田寺か火

同は... 陰町辺交の法念... 斎膳の事

○二月六日市谷か火... 市谷の事

○二月廿九日約込行町八百屋久多場娘
お七火刑... 火災の事

○二月六日市谷か火... 市谷の事

○二月廿九日約込行町八百屋久多場娘
お七火刑... 火災の事

○二月六日市谷か火... 市谷の事

○二月廿九日約込行町八百屋久多場娘
お七火刑... 火災の事

○二月六日市谷か火... 市谷の事

○二月廿九日約込行町八百屋久多場娘
お七火刑... 火災の事

○二月六日市谷か火... 市谷の事

らつる ○十二月五日江戸脱 合屋小舟 方角未洋 ○り作赤杉猪梓行 舟旅徳元 飛或鳥丸

先廣の庄飛と云は徳元妻の 以の編之とを今年正行せる中
○紫の一本写本成 戸田養膳作

御年回紀事

安宅丸の舟船を解せしれ一時安宅河原ありし舟船を被

大船をなす是一川の東岸の地へ移させしる

○大船形船を修し東安丸 薩長橋 舟田市丸 舟田一 大船船 徳一丸 舟田一 舟田一

山市丸 日本橋の船之屋 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

舟子拾遺記ありしあり 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

○狹谷源見十五里遠流は後十八年を懸て室中丸 舟田一 舟田一

千川上水 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

のうらぶ 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

流を千川上水と云ふ 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

川の流を業平橋 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

とのく 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

の橋際より 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

塔上丸の筋あり 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

○舟田市丸 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

天和中 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

町と 舟田一 舟田一 舟田市丸 舟田一 舟田一 徳一丸 舟田一 舟田一

○知良院を湯島へ移す 湯島八林田のよきあり

○弘法大師八百五十年忌 ○二月廿日古筆二代り社奉 四十才

○東福寺七仏堂作し 麻布 改 一梅

○九月廿二日官医忌 麻布 祥雲寺 并 葵す ○九月大風家屋を吹倒す

○十二月團圓忌 やまのきん 天宮 保井算哲天宮儀 改唐の

○甲子江戸鑑行 松舎 板板式鑑 板行の始といふ

○貞享二年乙巳

二月廿二日流里 本浦より 福山花生光教百里を懸け暫く

方々空井 ひま 雲あり雷の如し ○甚之田魚屋親老困懐 浅井より

○五月修四子福田寺 此寺作如來菩薩 此の所を十二神

○日暮里流所 此所社造営 ○六月漢系寺 智光院別当

○九月廿日将時 此真安信年

○十二月靈山 再植林と成す

○同三年 丙寅 二月

正月一日古筆に世り周年 ○閏二月利根川 為を武彦と

○二月 東橋より 東海川 本西の地ハ

○二月 東橋より 東海川 本西の地ハ

○九月品川 津殿後 ○九月小石川 自由権現を祀始

○九月 大石川 神祇組 と号し

同三年 丁卯

